

強化関連報告

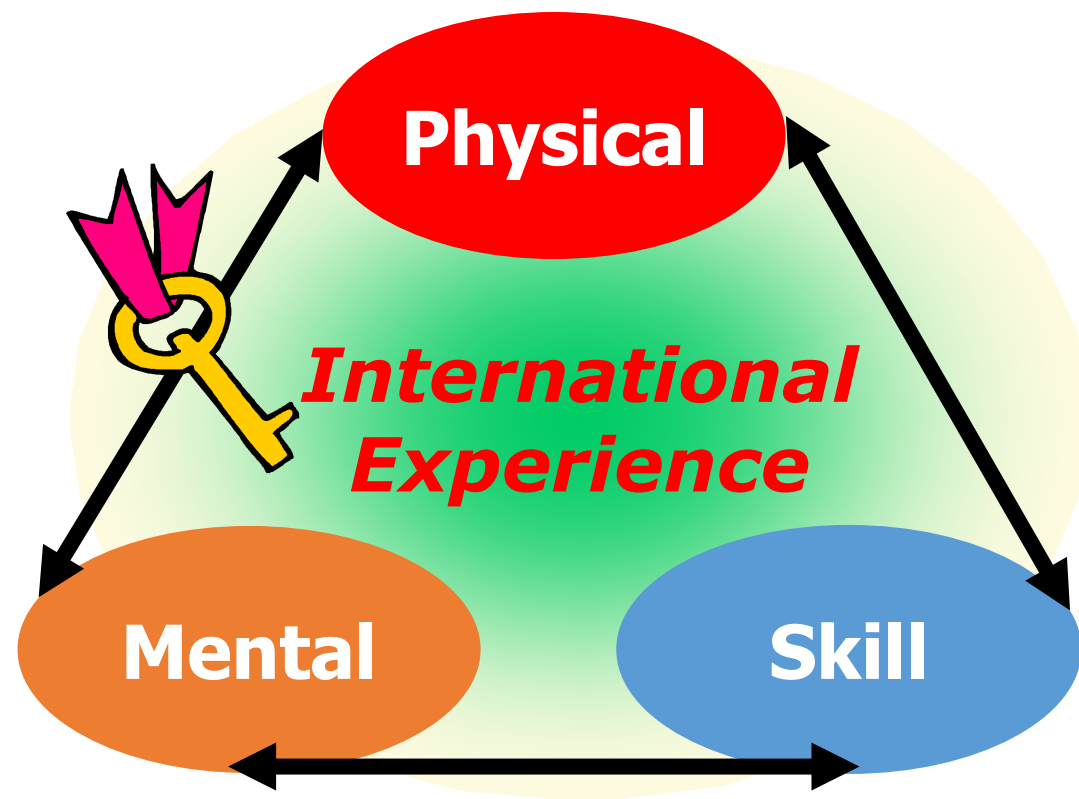


2020.10.3 全国理事長会

公益財団法人 日本ハンドボール協会
強化本部

彗星 JAPAN ・ おりひめJAPAN ～強化活動の経過報告～

強化方針

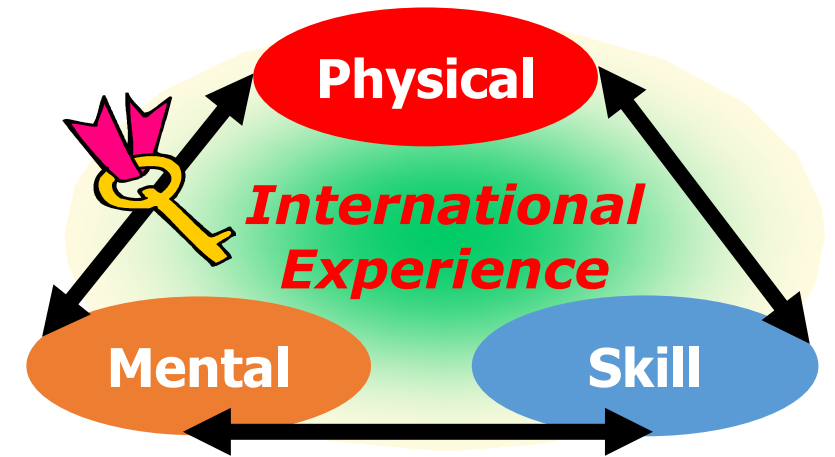


全ての基準を世界基準に合わせ、「国際経験」を数多く積む
「国際経験」を通して、(体力) + (技術) + (メンタル) を高める

強化方針

INTER NATIONAL EXPERIENCE

- ・男子は2018年より、女子は2016年より「**National team week**」に参戦。
欧州のカレンダーに合わせて「国際Aマッチ」を実施。
- ・国内長期強化合宿を実施し、トレーニングパートナーとして「**外国人ゲストプレーヤー**」を招聘。
- ・**国内で国際試合を開催**。国際大会をホームで開催し、本番のプレッシャー下での戦いを経験。



PHYSICAL

- ・長年の課題である「基礎体力向上・継続強化」については専門の「**フィジカルコーチ**」を登用。
- ・味の素様との協働プロジェクト及びサクラダイニングのサポートにより、選手個々の栄養管理サポートを実施。
- ・男子は「**サイドライン**」、女子は「**ONE TAP**」を活用し、年間を通して全選手の**コンディションを一括管理**。

SKILL

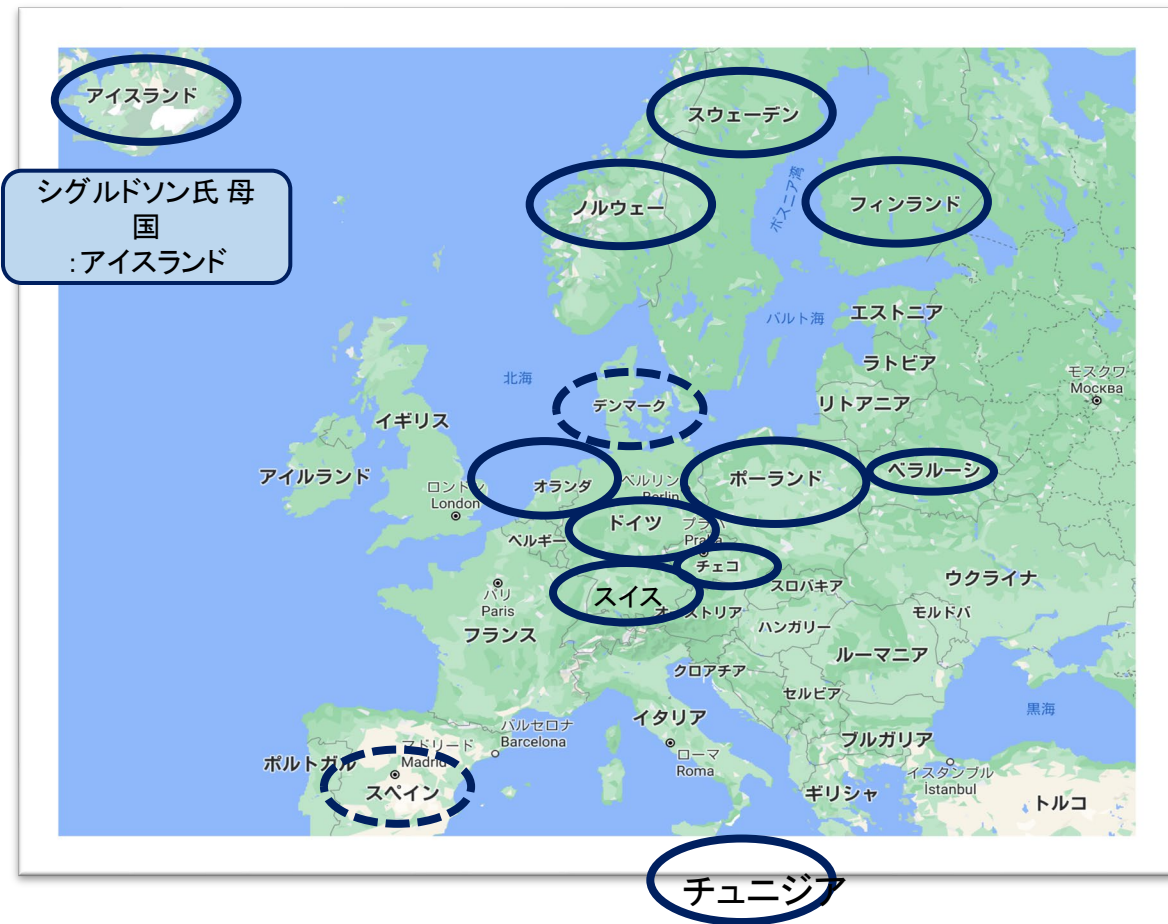
- ・「**世界を知るヘッドコーチ**」として男子はダグル シグルドソン氏、女子はウルリック キルケリー氏の招聘。
- ・本場ヨーロッパでも評価が高く国際経験豊富な「**外国人ゴールキーパーコーチ**」を招聘。

MENTAL

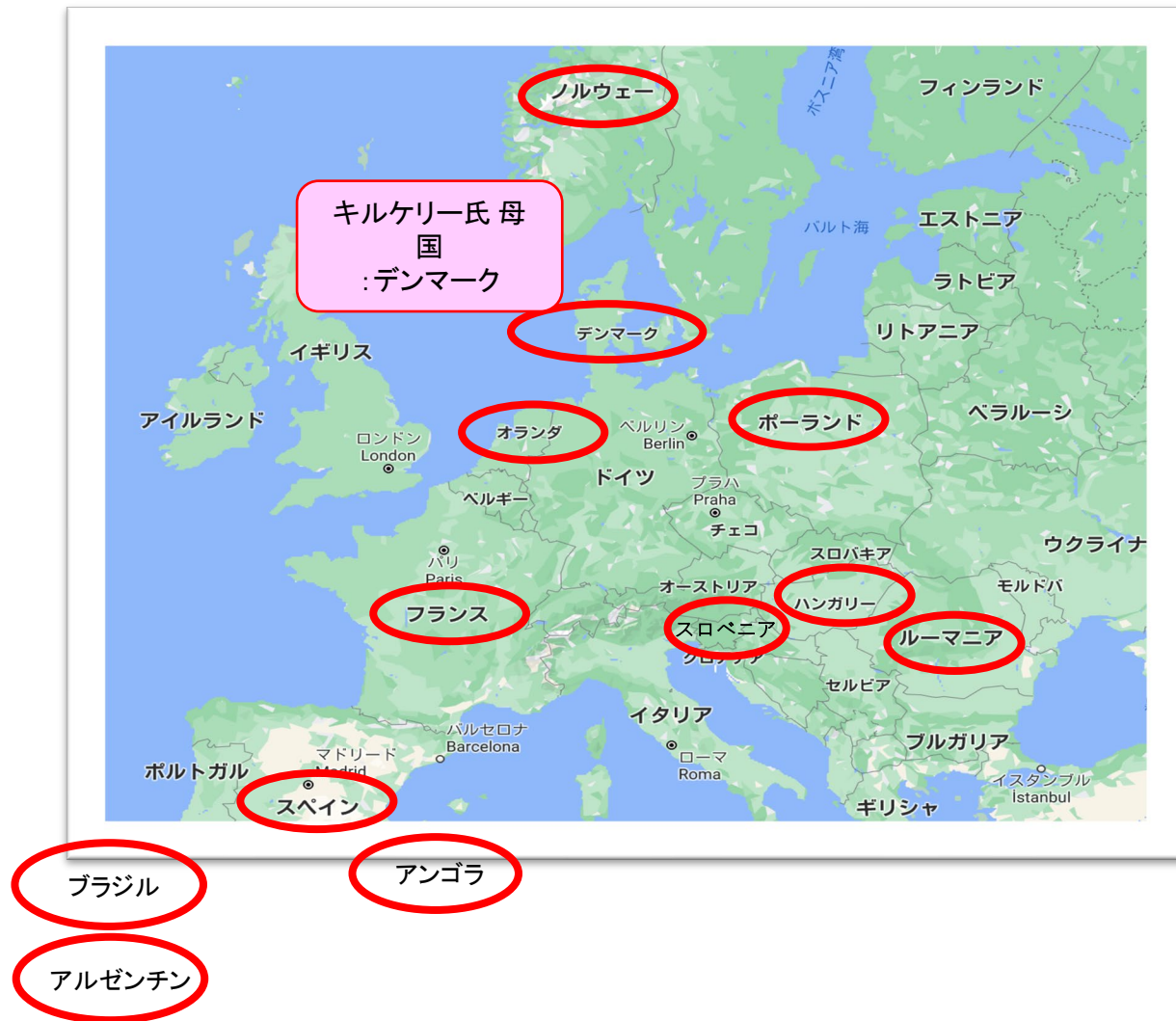
- ・メンタル面の強化に寄与するべく、**スポーツメンタル専門スタッフ**を招聘。メンタル面の強化にも着手。
- ・JOCインテグリティ教育事業とタイアップし、人間力向上・インテグリティ教育を目的として合宿時に「**研修機会**」の創出。

海外強化拠点

【男子】



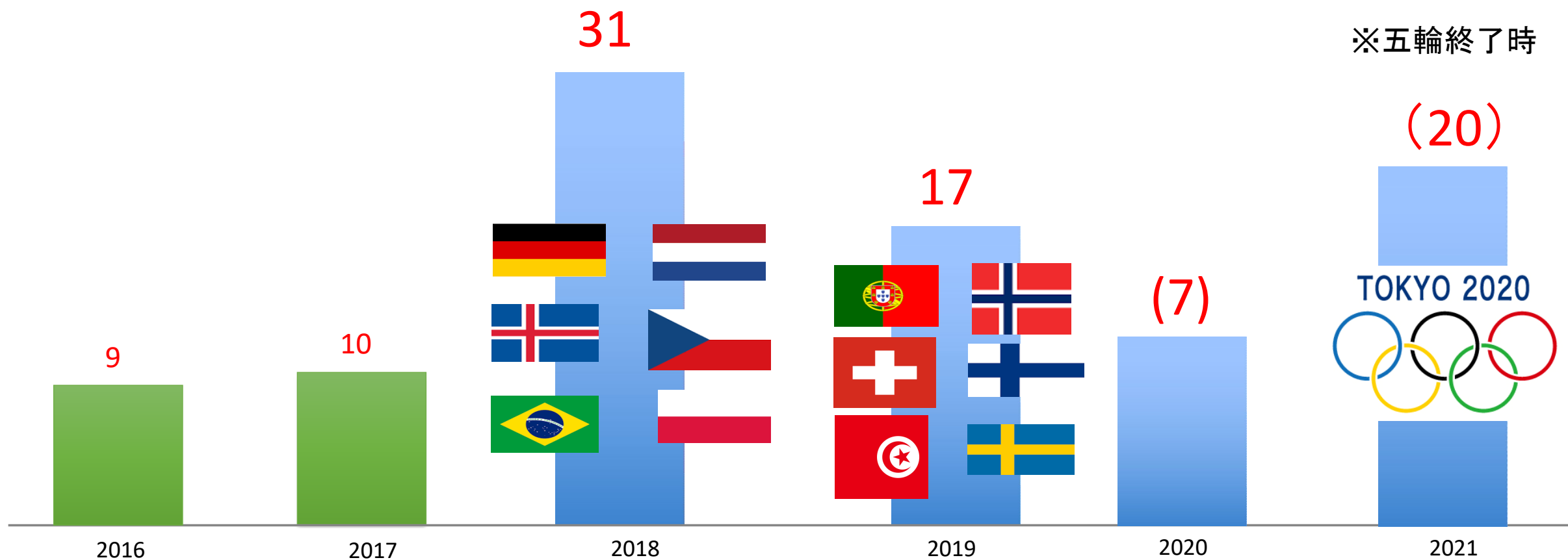
【女子】





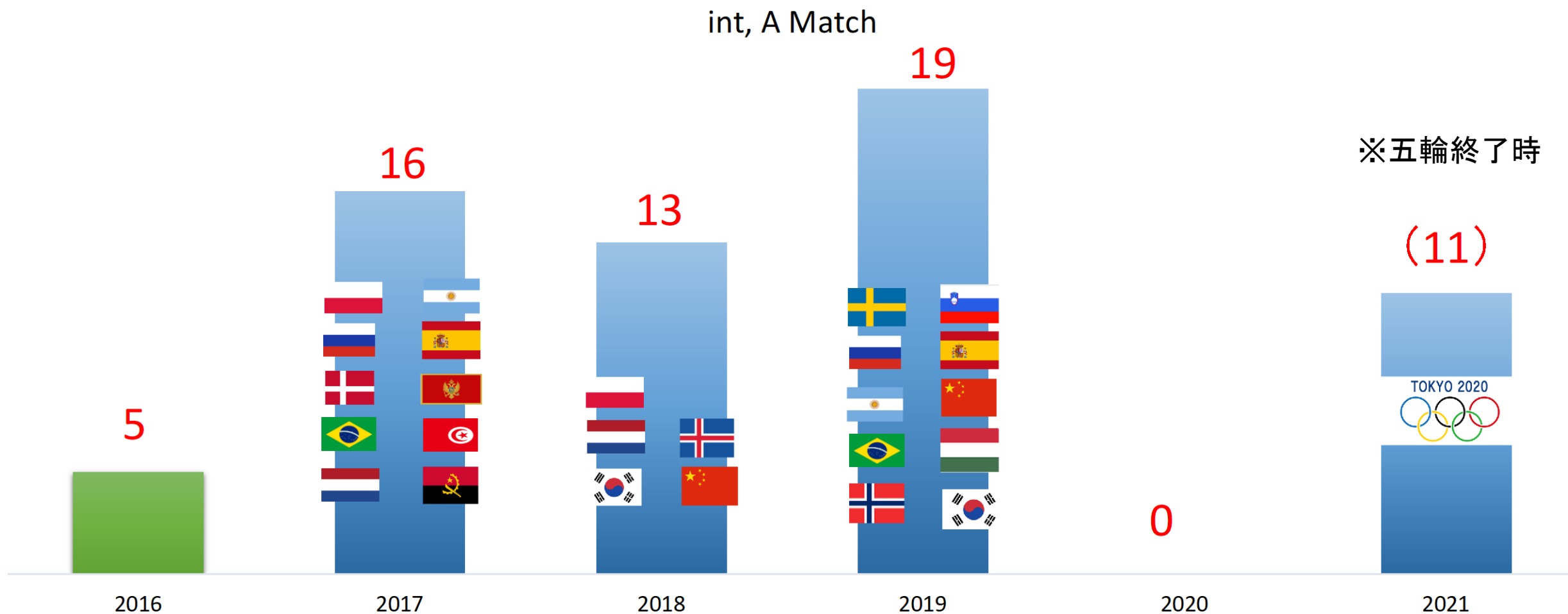
国際試合数(男子)

int, A Match



* 2018年より「National team week」に参戦。欧州のカレンダーに合わせて「国際Aマッチ」を実施・多くの実戦経験

国際試合数(女子)



* 2018年より「National team week」に参戦。欧州のカレンダーに合わせて「国際Aマッチ」を実施・多くの実戦経験

競技成績の推移(男子)

【アジア/世界における日本の成績推移】

	2006	2006	2008	2010	2010	2012	2014	2014	2016	2018	2018	2020
	タイAch	カタールAG	イランAch	レバノンAch	中国AG	サウジアラビアAch	バーレーンAch	韓国AG	バーレーンAch	韓国Ach	インドネシアAG	クウェートAch
1位	クウェート	クウェート	韓国	韓国	韓国	韓国	カタール	カタール	カタール	カタール	カタール	カタール
2位	韓国	カタール	クウェート	バーレーン	イラン	カタール	バーレーン	韓国	バーレーン	バーレーン	バーレーン	韓国
3位	カタール	イラン	サウジアラビア	日本	日本	サウジアラビア	イラン	バーレーン	日本	韓国	韓国	日本
4位	イラン	韓国	イラン	サウジアラビア	サウジアラビア	日本	UAE	イラン	サウジアラビア	サウジアラビア	日本	バーレーン
5位	日本	シリア	カタール	カタール	カタール	イラン	韓国	クウェート	イラン	イラン	イラン	UAE
6位	バーレーン	日本	日本	シリア	バーレーン	バーレーン	サウジアラビア	オマーン	韓国	日本	サウジアラビア	イラン
7位	ヨルダン	バーレーン	中国	イラン	中国	UAE	クウェート	サウジアラビア	UAE	UAE	イラク	サウジアラビア
8位	中国	サウジアラビア	UAE	レバノン	クウェート	クウェート	オマーン	中華台北	オマーン	オマーン	香港	クウェート
9位	タイ	レバノン	レバノン	中国	インド	ヨルダン	日本	日本	中国	中国	中華台北	イラク
10位	サウジアラビア(棄権)	UAE	バーレーン(棄権)	イラク	香港	ウズベキスタン	イラク	中国	レバノン	ウズベキスタン	インド	香港
11位		中国		UAE	モンゴル		中国	香港	シリア	オーストラリア	パキスタン	中国
12位		インド		ヨルダン		ウズベキスタン		モンゴル		インド	インドネシア	オーストラリア
13位		香港						UAE		バングラデシュ	マレーシア	ニュージーランド
14位		ウズベキスタン						インド		ニュージーランド		
15位		マカオ										

シニアカテゴリーにおけるアジア大会/選手権の順位

	2005	2007	2009	2011	2013	2015	2017	2019
	チュニジアWCh	ドイツWCh	クロアチアWCh	スウェーデンWCh	スペインWCh	カタールWCh	フランスWCh	ドイツ・デンマークWCh
1位	スペイン	ドイツ	フランス	フランス	スペイン	フランス	フランス	デンマーク
2位	クロアチア	ポーランド	クロアチア	デンマーク	デンマーク	カタール	ノルウェー	ノルウェー
3位	フランス	デンマーク	ポーランド	スペイン	クロアチア	ポーランド	スロベニア	フランス
4位	チュニジア	フランス	デンマーク	スウェーデン	スロベニア	スペイン	クロアチア	ドイツ
5位	モルビア・モンテネグロ	クロアチア	ドイツ	クロアチア	ドイツ	デンマーク	スペイン	スウェーデン
6位	ギリシャ	ロシア	ハンガリー	アイスランド	フランス	クロアチア	スウェーデン	クロアチア
7位	ノルウェー	スペイン	スウェーデン	ハンガリー	ロシア	ドイツ	ハンガリー	スペイン
8位	ロシア	アイスランド	セルビア	ポーランド	ハンガリー	スロベニア	カタール	エジプト
9位	ドイツ	ハンガリー	ノルウェー	ノルウェー	ポーランド	マケドニア	ドイツ	ブラジル
10位	チェコ	スロベニア	スロバキア	セルビア	セルビア	スウェーデン	デンマーク	ハンガリー
11位	スウェーデン	チュニジア	マケドニア	ドイツ	チュニジア	アイスランド	ベラルーシ	アイスランド
12位	スロベニア	チェコ	韓国	アルゼンチン	アイスランド	アルゼンチン	ロシア	チュニジア
13位	デンマーク	ノルウェー	スペイン	韓国	ブラジル	オーストリア	エジプト	カタール
14位	エジプト	ウクライナ	エジプト	エジプト	マケドニア	エジプト	アイスランド	ロシア
15位	アイスランド	韓国	ルーマニア	アルジェリア	ベラルーシ	チュニジア	マケドニア	マケドニア
16位	日本	アルゼンチン	ロシア	日本	エジプト	ブラジル	ブラジル	チリ
17位	アルジェリア	エジプト	チュニジア	スロバキア	アルジェリア	チェコ	ポーランド	アルゼンチン
18位	アルゼンチン	クウェート	アルゼンチン	オーストリア	アルゼンチン	ベラルーシ	アルゼンチン	セルビア
19位	ブラジル	ブラジル	アルジェリア	ルーマニア	サウジアラビア	ロシア	チュニジア	オーストリア
20位	アンゴラ	モロッコ	キューバ	チュニジア	カタール	ボスニアヘルツェゴビナ	サウジアラビア	バーレーン
21位	カタール	アンゴラ	ブラジル	ブラジル	韓国	イラン	チリ	サウジアラビア
22位	クウェート	グリーンランド	クウェート	チリ	モンテネグロ	サウジアラビア	日本	韓国
23位	カナダ	カタール	サウジアラビア	バーレーン	チリ	チリ	バーレーン	アンゴラ
24位	オーストラリア	オーストラリア	オーストラリア	オーストラリア	オーストラリア	アルジェリア	アンゴラ	日本

地域	カラー
ヨーロッパ	
アジア	
アフリカ	
南米	
オセアニア・北米	

シニアカテゴリーにおける世界選手権の順位

競技成績の推移(女子)

【アジア/世界における日本の成績推移】

	2006	2006	2008	2010	2010	2012	2014	2015	2017	2018	2018
	カタールAG	中国ACh	タイAch	中国AG	カザフスタンACh	インドネシアACh	韓国AG	インドネシアACh	韓国ACh	インドネシアAG	日本ACh
1位	韓国	韓国	韓国	中国	カザフスタン	韓国	韓国	韓国	韓国	韓国	韓国
2位	カザフスタン	中国	中国	日本	韓国	中国	日本	日本	日本	中国	日本
3位	日本	日本	日本	韓国	中国	日本	カザフスタン	中国	中国	日本	中国
4位	中国	カザフスタン	タイ	カザフスタン	日本	カザフスタン	中国	カザフスタン	カザフスタン	タイ	カザフスタン
5位	台湾		カザフスタン	北朝鮮	北朝鮮	北朝鮮	ウズベキスタン	ウズベキスタン	ウズベキスタン	北朝鮮	オーストラリア
6位	ウズベキスタン		ベトナム	台湾	ウズベキスタン	ウズベキスタン	香港	イラン	ベトナム	カザフスタン	イラン
7位	タイ		イラン	タイ	タイ	中華台北	タイ	インド	イラン	香港	香港
8位	インド		インド	インド	イラン	インド	インド	香港	香港	インドネシア	インド
9位			ウズベキスタン		カタール	イラン	モルディブ	インドネシア		インド	シンガポール
10位			カタール			トルクメニスタン				マレーシア	ニュージーランド
11位						インドネシア					
12位						クウェート					

シニアカテゴリーにおけるアジア大会/選手権の順位

	2005	2007	2009	2011	2013	2015	2017	2019
	ロシアWCh	フランスWCh	中国WCh	ブラジルWCh	セルビアWCh	デンマークWCh	ドイツWCh	日本WCh
1位	ロシア	ロシア	ロシア	ノルウェー	ブラジル	ノルウェー	フランス	オランダ
2位	ルーマニア	ノルウェー	フランス	フランス	セルビア	オランダ	ノルウェー	スペイン
3位	ハンガリー	ドイツ	ノルウェー	スペイン	デンマーク	ルーマニア	オランダ	ロシア
4位	デンマーク	ルーマニア	スペイン	デンマーク	ポーランド	ポーランド	スウェーデン	ノルウェー
5位	オランダ	フランス	デンマーク	ブラジル	ノルウェー	ロシア	ロシア	モンテネグロ
6位	ドイツ	韓国	韓国	ロシア	フランス	デンマーク	デンマーク	セルビア
7位	ブラジル	アンゴラ	ドイツ	クロアチア	ドイツ	フランス	モンテネグロ	スウェーデン
8位	韓国	ハンガリー	ルーマニア	アンゴラ	ハンガリー	モンテネグロ	チェコ	ドイツ
9位	ノルウェー	クロアチア	ハンガリー	スウェーデン	スペイン	スウェーデン	セルビア	デンマーク
10位	ウクライナ	スペイン	オーストリア	モンテネグロ	ルーマニア	ブラジル	ルーマニア	日本
11位	クロアチア	ポーランド	アンゴラ	韓国	モンテネグロ	ハンガリー	スペイン	韓国
12位	フランス	マケドニア	中国	アイスランド	韓国	スペイン	ドイツ	ルーマニア
13位	オーストリア	ウクライナ	スウェーデン	ルーマニア	オランダ	ドイツ	韓国	フランス
14位	スロベニア	ブラジル	チュニジア	日本	日本	韓国	スロベニア	ハンガリー
15位	マケドニア	チュニジア	ブラジル	オランダ	チェコ	セルビア	ハンガリー	アンゴラ
16位	アンゴラ	オーストリア	日本	コートジボワール	アンゴラ	アンゴラ	日本	アルゼンチン
17位	中国	コンゴ	ウクライナ	ドイツ	チュニジア	中国	ポーランド	ブラジル
18位	日本	カザフスタン	コートジボワール	チュニジア	中国	アルゼンチン	ブラジル	セネガル
19位	ポーランド	日本	アルゼンチン	カザフスタン	アルゼンチン	日本	アンゴラ	スロベニア
20位	アルゼンチン	アルゼンチン	コンゴ	ウルグアイ	コンゴ	プエルトリコ	カメルーン	コンゴ
21位	コートジボワール	中国	タイ	中国	パラグアイ	チュニジア	パラグアイ	キューバ
22位	カメルーン	ドミニカ共和国	カザフスタン	キューバ	アルジェリア	カザフスタン	中国	カザフスタン
23位	ウルグアイ	パラグアイ	チリ	アルゼンチン	ドミニカ共和国	キューバ	アルゼンチン	中国
24位	オーストラリア	オーストラリア	オーストリア	オーストラリア	オーストラリア	コンゴ	チュニジア	オーストラリア

地域	カラー
ヨーロッパ	
アジア	
アフリカ	
南米	
オセアニア・北米	

シニアカテゴリーにおける世界選手権の順位

国際経験による選手層の底上げ(男子)

<2019世界選手権(24位)>

◇1大会(6～7試合)または1試合(60分間)を通して、
メンバー全員でプレー時間をシェアしながら、チーム
全体で戦い抜けるチーム力の醸成。(総力戦)

・平均出場時間(1試合)

- 50分以上:0名
- 45分以上:0名
- 40分以上:3名
- 30分以上:3名
- 20分以上:5名
- 10分以上:3名
- 5分以下:2名のみ(内、GK1名)

コンタクトプレーが頻繁に出現する現代ハンドボールにおいて、体力が十分に回復していないにも関わらず、高度な技術&戦術の発揮を望めば、イーギーミスを誘発するだけでなく、怪我や故障にもつながるなどチームの望む結果を得ることが出来ない。つまり、安定したチームパフォーマンス発揮のためには、ファーストライン(先発メンバー)のみならずセカンドラインの選手を含めた総力戦が必須となり、今後もチーム力の底上げが重要ポイント。

国際経験による選手層の底上げ(女子)

<2017世界選手権(16位)>

◇核となる選手の活躍

-CB、Wing、GKを軸にゲームが安定
(横嶋・池原・亀谷)

・平均出場時間

- 50分以上:3名
- 20分以上:7名
- 5分以下:1名のみ

・オランダ戦で多田選手の活躍

→3人の核選手+7人をメインに構成
→ほぼ全員を試合の局所で使っている
→特徴を生かしたスポット起用



<2019世界選手権(10位)>

◇メンバー全体を起用した総力戦

※主力選手の怪我の影響を全体で補完
(原・横嶋・池原)

・平均出場時間

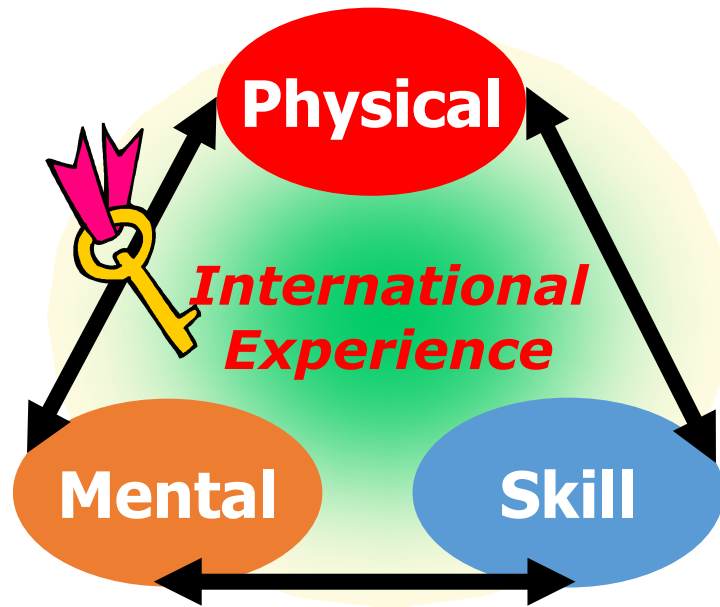
- 50分以上:0名(GK亀谷:47分)
- 35分以上:7名
- 15分以上:5名
- 10分以下:2名のみ

・ゲームメイカー : 大山(37分) / 石立(26分)

・中央ディフェンダー: 佐々木(35分)を中央で起用、
塩田(28分)をDF専で様々なポジションに起用

→7人の中心選手+5人のセカンドメンバーをメインに構成
→怪我人を除くほぼ全員を試合の局所で起用

成果(まとめ)



+

長期的視点にたった
選手選考

=

試合結果の安定

「国際経験」をキーとした強化方針

- ◆国際試合で勝つことに照準を当てた
フィジカル・メンタル・スキルの向上



- ◆NTWを利用した国際試合経験の増加

選手層の拡大

- ◆常時約30人のグループを強化対象に
合宿実施、遠征帯同、試合出場



- ◆選手層の底上げ、60分戦い切るゲーム
の実現、怪我人が出たときのダメージの
最小化

勝つべき試合に勝ち、 欧州相手に戦えるチームに

- ◆男子:世界選手権3大会連続出場
- ◆女子:世界選手権10位

彗星 JAPAN・おりひめ JAPAN ～国際大会スケジュール～

◇第18回女子アジア選手権

開催地:未定

会期:2021.4.12～21の期間で公募中

◇第27回男子世界選手権

開催地:エジプト

会期:2021.1.13～31

A 6TH OF OCTOBER SPORTS HALL		B NEW CAPITAL SPORTS HALL		C BORG AL ARAB SPORTS HALL		D CAIRO STADIUM SPORTS HALL	
GER 15/1	URU	ESP 15/1	BRA	QAT 15/1	ANG	ARG 15/1	COD
HUN 15/1	CPV	TUN 15/1	POL	CRO 15/1	JPN	DEN 15/1	BRN
CPV 17/1	GER	TUN 17/1	BRA	QAT 17/1	JPN	ARG 17/1	BRN
HUN 17/1	URU	POL 17/1	ESP	ANG 17/1	CRO	COD 17/1	DEN
URU 19/1	CPV	ESP 19/1	TUN	JPN 19/1	ANG	BRN 19/1	COD
GER 19/1	HUN	BRA 19/1	POL	CRO 19/1	QAT	DEN 19/1	ARG
E 6TH OF OCTOBER SPORTS HALL		F NEW CAPITAL SPORTS HALL		G CAIRO STADIUM SPORTS HALL		H BORG AL ARAB SPORTS HALL	
AUT 14/1	NAC*	ALG 14/1	MAR	EGY 13/1	SCA*	BLR 14/1	RUS
NOR 14/1	FRA	POR 14/1	ISL	SWE 14/1	CZE	SLO 14/1	KOR
AUT 16/1	FRA	MAR 16/1	POR	EGY 16/1	CZE	BLR 16/1	KOR
NAC* 16/1	NOR	ALG 16/1	ISL	SCA* 16/1	SWE	RUS 16/1	SLO
FRA 18/1	NAC*	POR 18/1	ALG	CZE 18/1	SCA*	KOR 18/1	RUS
NOR 18/1	AUT	ISL 18/1	MAR	SWE 18/1	EGY	SLO 18/1	BLR

SCA*: THE WINNER OF SOUTH AND CENTRAL AMERICA HANDBALL CONFEDERATION LAST CHANCE QUALIFICATION TOURNAMENT
NAC*: THE WINNER OF NORTH AMERICA AND THE CARIBBEAN HANDBALL CONFEDERATION MEN'S CHAMPIONSHIP

REMARK: IHF HAS THE RIGHT TO CHANGE THROUGH KEY TIMES AND ORDER OF MATCHES AT ANY TIME.

アンダーカテゴリー代表 ～国際大会スケジュール～

◇第22回女子ジュニア世界選手権

開催地：ルーマニア 会期：2020.12.1～13 注：IHFにて開催検討中

◇第8回女子ユース世界選手権

開催地：クロアチア 会期：2020.12.1～13 注：IHFにて開催検討中

◇第9回男子ユースアジア選手権

開催地：カザフスタン 会期：2021.3.1～12

◇第17回男子ジュニアアジア選手権

開催地：イラン 会期：2021.3.20～29